

第10回きぼう利用推進有識者委員会 議事要旨

1. 日時:2019年10月28日(月)15:00~17:00

2. 場所:日本宇宙フォーラム 第1、2会議室

3. 出席者

(1)委員

永井委員長、浅島委員、奥村委員、佐宗委員、西島委員、山本委員

(2)JAXA/事務局

若田光一、上森規光、小川志保、白川正輝、猿渡英樹、芝大、吉崎泉、加藤充康、鈴木和哉 他

4. 議事要旨

各議題において委員より頂いたご意見をもとに、きぼう利用に関し2024年までに取り組むべき活動、その先の地球低軌道利用を見据えた「きぼう」利用の目指す姿等、きぼう利用戦略の見直し方針を検討する。主な議論及びご意見は以下のとおり。

(1) きぼう利用テーマの状況(報告)

- 2019年度「きぼう」船内科学利用研究テーマ募集結果、「きぼう」利用テーマの状況及び成果、今後の募集方針等について報告し、今後の科学利用の進め方について議論があった。
- 「きぼう」利用成果は、件数や論文数等の数値データだけでなく具体的な成果事項やブレークスルーも示すようご意見があった。また、利用促進としてアカデミアへの働きかけを強め、グローバルな視点で最先端のサイエンスを取り込むのが良い旨のご意見があった。

(2) ISS・地球低軌道利用に関する周辺状況と国内状況について(報告)

- 「きぼう」利用に関連する周辺状況について、「きぼう」利用における成果と他国との比較分析、国際宇宙探査及びISS・地球低軌道に関する米国の動向、国内での検討作業等について報告し、議論があった。
- 月周回有人拠点について米国やISS参加他国、中国等の動向を踏まえ、ISS・地球低軌道の継続的な利用や民間による利用拡大を図るよう検討することが必要とのご意見があった。

(3) 「きぼう」利用戦略について(討議)

- 「きぼう」利用の目指す姿の評価指標に対する評価結果、「きぼう」利用戦略の方向性について報告し、評価指標や目標の設定、評価の考え方等について議論があった。
- 今後の低軌道利用の方向性については、様々なオプションが存在するため、それらの具体的な説明や産業界からの利用が発展するよう民間のコスト負担の表現方法等の工夫が必要とのご意見があった。予算状況を踏まえ、ISS、ゲートウェイとの両立も含めて、「きぼう」の効果的な運用・利用について継続して検討が必要とのご意見があった。
- また、小型衛星放出の継続性・発展性を確保するため、教育以外の成果を整理・アピールするとともに、放出した衛星軌道の実効性や有効性について丁寧な説明や衛星の軌道等の制約を減らし、実効的な運用が得られるような検討も必要とのご意見があった。

(4) アウトリーチ活動について(報告)

- 「きぼう」利用のアウトリーチ活動について報告し、アウトリーチ活動での冊子に求められる形態等についてご意見をいただいた。

以上